

江戸期から近代・現代へ **400年**
日本の“絵のある書物”を総ざらい
絵本・挿絵と画家を知る総合事典

図版総数約 **2000** 点収載

カラー 約1600 点

画家事典

約**1200** 名



草双紙・往来物などの版本 幕末から開化・明治の舶来・洋装本
大量印刷時代の出版物、書籍・雑誌・新聞、そして教科書・読本――
物語・小説・詩歌・劇・童話、翻訳、歴史・人物伝・科学・教養読み物
誰もが読み、手にした書物は……

絵 とともにあった。

書籍の口絵・挿絵・表紙や装幀・造本にある絵
雑誌・新聞に掲載の挿絵… その画家は？
「絵と画家と書物」から日本の出版 **400年**を総覧する大事典

図説 絵本・挿絵大事典

えほん
さしえ

川戸道昭・榊原貴教 編著

全**3** 巻

図説 絵本・挿絵大事典

えほん さしえ

刊行に際して

半世紀の間、書物に接し、書物の恩恵をこうむってきた。長い間、書物とは活字文化であると考えてきたが、いつ頃からかその活字を飾る絵が気になり始めた。子どもの頃に読んだ書物にはほとんど挿絵があった。明治期の文学作品を調査し始めると、小説の多くに鮮やかな口絵が飾られている。明治以降の新聞に掲載される連載小説は、挿絵がないと物足りない思いをさせる。挿絵や口絵は常識的には、作品の飾と思われてきたが、いつ頃からその役割が転倒してきた様相を呈し始めている。『図説絵本・挿絵大事典』の構想は、このような現実をどのように理解するかという問いから生れた。

絵本・挿絵は、美術とも文学とも距離を置き、かつその橋渡しをなす独自の世界を主張し始めた。その自立の過程を、印刷文化の始まったキリシタン版天草本から現代までを俯瞰する事典として編集したのが本事典である。

本事典が対象としたのは、江戸時代の草双紙、往来物、明治・大正・昭和・平成の東京時代の文学書、児童雑誌、大衆雑誌、婦人雑誌、新聞である。とりわけ「童画」という呼称で概括される大正以降の少年少女向きの本、第二次世界大戦後の幼児向けの絵本とその画家は、重視した。構成は、第1巻「図説日本の児童書四〇〇年」では江戸時代から第二次世界大戦までに主眼を置き、第2・3巻「絵本・挿絵画家事典」では明治から平成までに主眼を置いて編集した。双方で扱った画家は**1200名**を越し、絵本・挿絵事典の性格から図版は**カラー1600余点**、**モノクロ約400点**を掲載する。

ビジュアル化時代に、印刷文化と出生をともにしてきた挿絵とは何かを考える、日本で初めての絵本・挿絵の事典である。美術、文学、教育の研究に関心をもつ方々、ならびに収集・調査・閲覧にかかわる図書館・美術館の方々の座右の書として活用を願う次第である。

2008年11月

川戸道昭 第1巻執筆主幹

榊原貴教 第2・3巻執筆主幹

川戸道昭・榊原貴教 編著
全3巻

概要・特色

1 広く「絵のついでに書物」全般を対象として、四〇〇年におよぶ日本の絵本・挿絵の歴史と絵の作者11画家を、初めて総覧する画期的事典。

- ・時代・社会の変遷につれ盛衰、途絶、消滅や再生を遂げる生きた書物の歴史が、豊富な図版を伴って展開。
- ・美術と文学や周縁の領域を「絵本・挿絵」でとり結ぶ初めての総合事典。

2 第1巻「図説日本の児童書四〇〇年」

日本の児童書の歴史を、江戸期から現代までを一貫して視野に収め捉えた初めての事典。

◆全ページカラー 図版1600余点収載

- ・児童書の命ともいえる挿絵・口絵・表紙絵、装幀・造本に焦点をあて通覧する。
- ・重要で注目すべき人と業績、時代の潮流、意義などを特設「コラム」で詳しく語る。

3 第2・3巻「絵本・挿絵画家事典」

絵本・挿絵に関わる多数の画家の業績を本格的にまとめた初めての人名事典。

◆収録画家数1200余名 モノクロ図版約400点収載

- ・収録画家数は類書で最大級で、多くの人名は他の関係事典で採りあげられていない。
- ・既存の美術・文学など個別事典に載る画家でも、ほとんど触れられていない絵本・挿絵の業績を具体的に知ることが出来る。

4 永年にわたり日本における西洋文学移入史を、徹底した実証主義で跡づけ研究してきた編者が、貴重資料をもとに執筆した二度と実現不可能な労作。【最終頁・編著者紹介参照】



第1巻 図説日本の児童書四〇〇年

第1部 江戸期

序章 絵入版本の黎明（仮名草紙）

第1章 児童書のはじまり 17〜18世紀

江戸の子ども絵本（草双紙） 金平本 赤本 黒本・青本
黄表紙 上方の子ども絵本 半紙本 豆本

第2章 江戸後期の児童書 1800〜1868年

合巻 豆本 中本 西洋文学移入の先蹤 錦絵・おもちゃ絵・
絵双六

第2部 明治期

第1章 「近世」から「近代」へ 1868〜1885年

〈維新後の10年間〉 一般書の流れ 西洋に学ぶ 新技術の導入
〈明治10年代〉 一般書の流れ 英語教科書を通じた外国児童文
学の影響 児童雑誌の芽生え 江戸の伝統、明治の輝き

第2章 近代児童文学への道 1885〜1912年

〈明治18〜30年〉 一般書 子どもの読み物欄の出現 英語教科
書の影響 さまざまな試み 近代化への歩み 創作物語の萌芽
児童文学者巖谷小波の誕生 児童雑誌の流行
〈明治30年代〜40年代〉 一般書 外国作品の受け入れ お伽噺の流行
教育界の動向 多様化する児童雑誌 絵本の流行 大衆化の流れの中で

第3部 大正・昭和（戦前）期

第1章 芸術志向の高まり 1912〜1925年

〈大正期〉 明治の継承 富山房「模範家庭文庫」 鈴木三重
吉の児童文学運動 大正期の児童雑誌 さまざまな児童書
集の企て 大正期の翻訳書 大正期の絵本

第2章 大衆化の流れの中で 1926〜1945年

〈昭和前期（戦前）〉 円本全集ブームと児童文学 拡大する領
域 児童書に与えた映画の影響 本格的絵本のはじまり
昭和前期の児童雑誌 昭和前期の翻訳書

第4部 昭和（戦後）期

近代から現代へ 1945〜1955年

〈昭和20年代〉 継承と発展 昭和20年代のグリム童話・アンデルセ
ン童話講談社『世界名作全集』『世界名作童話集』 岩波少年文庫

索引（人名・キーワード） 22頁

*日本の絵本・挿絵史上の主要人名（画家・著者など）500超、
書名など約960の事項を収める。

第2・3巻 絵本・挿絵画家事典

初めての単独挿絵画家事典

江戸時代から明治・大正・昭和・平成まで（本書刊行は2008年）
書物の口絵・挿絵・表紙や装幀・造本に見る絵
雑誌・新聞に掲載の挿絵などを対象に
画家の絵の作家の業績を明らかにした
他に類を見ないユニークな大事典

*項目内容（②④⑤は一部作家）

- ① 生没年、略歴、展覧会情報
- ② 「顔」 Ⅱ 画家による経歴談、
他者による評など。
- ③ 作品 Ⅱ 挿絵掲載書・雑誌・新聞の目
録（刊行年代順）
- ④ 単著の画集・著作、全集刊行目録
- ⑤ 挿絵・口絵・装幀などの資料図版

画家数1200余名 図版（モノクロ）約400点収載

*収録画家（抄）

江戸時代 浅山蘆国、歌川国貞、歌川国松、歌川豊国、北尾重政、北尾政演、

喜多川歌麿、溪斎栄泉、恋川春町、葛飾北斎、魚屋北溪など

明治期 安達吟光、荒井寛方、井川洗厓、池田蕉園、池田輝方、一条成美、稲野

年恒、印藤真楯、歌川豊宣、歌川芳宗、海野精光、尾形月耕、尾竹国観、落合芳幾、

鏑木清方、梶田半古、河鍋曉斎、桐谷洗鱗、久保田米僊、小杉未醒、小林永濯、

小林清親、小堀鞆音、鈴木華邨、武内桂舟、月岡芳年、筒井年峰、富岡永洗、

中沢弘光、中村不折、橋本周延、鰭崎英朋、藤島武二、藤原信一、松本楓湖、

三島蕉窓、水野年方、宮川春江、山中古洞、渡辺省亭、渡部審也など

大正期 有島生馬、伊東深水、猪飼春紅、石井柏亭、太田三郎、岡本一平、岡本帰一、

恩地孝四郎、加藤まさを、木村莊八、河野通勢、小村雪岱、斎田喬、清水良雄、

鈴木淳、高島華宵、武井武雄、竹久夢二、田中良、谷洗馬、名越国三郎、落谷

虹児、細木原青起、水島爾保布、山村耕花など

昭和・戦前期 浅野碌耳、飯沢天羊、飯塚鈴児、石井鶴三、伊藤幾久造、伊藤彦造、

今村のぶを、岩岡とも枝、江崎孝坪、小田富弥、樺島勝一、川上四郎、河目悌

二、黒崎義介、小林秀恒、斎藤五百枝、須藤しげる、田中比左良、寺内万治郎、

東郷青児、富田千秋、富永謙太郎、中川一政、初山滋、林唯一、平沢文吉、深

沢省三、藤田嗣治、本田庄太郎、宮本三郎、村山知義、横山隆一など

昭和・戦後から平成期 赤羽末吉、秋野不矩、朝倉根、安野光雅、池田龍雄、生沢朗、

石垣好晴、井上洋介、猪熊弦一郎、岩崎ちひろ、岩田専太郎、宇野重喜良、田

中良、谷内六郎、松本かつぢ、真鍋博、横尾忠則、米倉斉加年など



『少女倶楽部』第2巻4号(大日本雄弁会、1924年4月)
表紙(鍋木清方画)・挿絵(高島華宵画)



『少年少女 譚海』6巻5号(博文館、1925年5月)表紙



『少女』95号(時事新報社、1920年10月)表紙(岡本錦一画)

◆『少女倶楽部』『少女画報』他

372

『赤い鳥』や『金の船』『金の星』以外にも、外国起源の物語の翻訳や翻案、再話を取り上げている雑誌は数多く見受けられる。それらの雑誌の中には、書物と同様、大変美しい表紙絵や挿絵を掲載したものが多く、ここに掲げた『少女倶楽部』のように、表紙を鍋木清方が描き、中の挿絵を加藤まさを、路谷虹児、高華宵らが分担するなど、著名画家による口絵や挿絵をふんだんに配した、視覚的にも大変魅力に富んだ雑誌も少なくなかった。



特集・コラムの充実

時代背景の理解に役立つエピソード・重要トピックスを挿入(→)

[江戸期] 「往来物」とよばれる江戸の教科書 [明治期] 河鍋暁斎とテニエル / 馬に乗ったはだかの王様 / グリム童話の発見 / 日本で最初にペロー童話を描いた人物 / 創作の空白を埋めた外国文学 / 「お伽噺」書流行の背景 / 英語教育と外国児童文学 / 外国児童文学、人気作品ベスト 20
[大正期] 赤い鳥運動の功罪 / 大正期の芸術的出版物を彩った人々 / 宮沢賢治の童話世界
[昭和(戦前)期] 翻訳家村岡花子誕生悲話 / 画壇の大物が描いた世界の児童文学 など

第2・3巻

絵本・挿絵画家事典

本文
組見本

須藤しげる すどうしげる (一八九八～一九四六)

明治三十一年九月十七日、愛知県挙母村に生れる。本名源重。小学校卒業後、上京して岸田劉生に油絵を学ぶが、のち日本画に転じ中村岳陵に師事。生活のため、大正十二年頃から『少女の友』『少女倶楽部』等の口絵や挿絵を描く。昭和二十一年二月三日死去。

〔顔〕(須藤重は抒情画について、次のように述べたことがある。／「抒情画の特色は、画家の甘美な陶酔が、想像の道と、写実の道とを通過して形づくった表現(画因)にあると思ひます。／抒情画と挿絵とどう違ふかと言へば、挿絵は、その小説なり物語の内容を説明する画であるけれども、抒情画では、その挿絵に、その画家の眼がもつとはつきりと、その画家自身の人生観、自然観を画の内に盛りこんで、その感情を、画に寄つて表現したもの、詩を読むと同じ感情にあふれてくる画、これが抒情画と云へると思ひます」(『抒情画の描き方』昭和十年)(尾崎秀樹「少女哀愁抒情画譜」、『別冊太陽・絵本Ⅱ』昭和五十九年九月)挿絵掲載書

大正12年 『花物語』 吉屋信子著 交蘭社(大正15年3月)
大正15年8月 『君よ知るや南の国』 加藤武雄著 大日本雄弁会講談社
昭和5年3月 『嘆きの夜曲』 長田幹彦著 平凡社 令女文学全集3
昭和5年9月 『抒情カット図案集』 宝文館
昭和6年5月 『海に立つ虹』 加藤武雄著 大日本雄弁会講談社
昭和7年10月 『少女純情詩集』 西条八十著 大日本雄弁会講談社
昭和8年3月 『陸奥の嵐』 千葉省三著 大日本雄弁会講談社
昭和9年 『月よりの使者』 久米正雄著 大日本雄弁会講談社(初出、『婦人倶楽部』昭和8年～9年)

昭和9年2月 『雪子の御方(勤王絵話)』 前田曙山著 大日本雄弁会講談社 『少女倶楽部』付録
昭和10年12月 『あの道この道』 吉屋信子著 大日本雄弁会講談社
昭和12年1月 『愛染かつら』 川口松太郎著 『婦人倶楽部』(13年5月)
昭和12年5月 『花物語(純情詩話)』 西条八十著 大日本雄弁会講談社
昭和14年1月 『安壽姫と厨子王丸』 千葉省三著 大日本雄弁会講談社 講談社の絵本
▼ほかに、単著の画集等として、以下のものがある
昭和60年3月 『須藤しげる抒情画集』 国書刊行会

須藤しげる挿絵



「愛染かつら」川口松太郎著(『婦人倶楽部』昭和12年1月～13年5月)挿絵

299

原寸

従来の美術・文学などの事典に載っていない画家を多数含み、人を知り、作品にあたる情報源として大いに役立つ事典

基本項目内容

②④⑤は一部作家

- ①生没年、略歴、展覧会情報
- ②「顔」=画家による経歴談、他者による評など。
- ③作品=挿絵掲載書・雑誌・新聞の目録(刊行年代順)
- ④単著の画集・著作、全集刊行目録
- ⑤挿絵・口絵・装幀などの資料図版

*第2・3巻はモノクロ印刷
総595頁

図説

絵本・挿絵大事典

川戸道昭・榊原貴教 編著

全3巻

図版総数約 2000点 収載

カラー 約1600点

画家事典

約1200名

「絵と画家と書物」
貴重図版満載で
日本の出版400年を一望

書籍・雑誌・新聞の
挿絵・口絵や装幀・造本の絵
その画家を知るとき
いま最も頼りになる最大級の事典

公共図書館 研究機関図書館
学校・教育機関図書室 など
美術館・文学館・博物館・歴史資料館 など
レファレンス・参考図書コーナーに

【編著者紹介】 *肩書は刊行時

川戸道昭 (かわと・みちあき) 中央大学教授

榊原貴教 (さかきばら・たかのり) ナダ出版センター主宰

「翻訳」を近現代日本の文学・社会総体に底流する文化と位置づけ膨大な資料・文献を調査・収集し、復刻編纂した多数の目録・全集・事典は、多くの読者・研究者に益している。

明治翻訳文学全集《新聞雑誌編》(50巻)、同《翻訳家編》(20巻)。
図説 翻訳文学総合事典(5巻)。図説 児童文学翻訳大事典(4巻)。
シェイクスピア翻訳文学書全集(45巻)。児童文学翻訳作品総覧(8巻)。世界文学総合目録(10巻)。ボードレール：明治・大正期翻訳作品集成(1巻)。「翻訳詩」事典：フランス編(1巻)。
資料集成 近代日本語〈形成と翻訳〉(18巻)ほか [1990年代～2016年刊]。詳細は大空社出版ホームページ]

これらは〈すべて現物を確認する〉徹底した実証主義で貫かれており(本書『図説 絵本・挿絵大事典』全3巻も同様)、時を経て
も不変の信頼性を有している。



全3巻
(分売不可)

B5判・上製・総1100頁・クロス装・カバー
ISBN978-4-283-00621-8

揃定価 104,500円 (本体95,000円+税10%)

発行：大空社 / ナダ出版センター(共同出版) 2008年11月
発売：大空社出版 www.ozorasha.co.jp (東京都北区中十条4-3-2)

学術資料出版
大空社出版
www.ozorasha.co.jp

東京都北区中十条4-3-2
(〒114-0032)
TEL:03-5963-4451
FAX:03-5963-4461
eigy@ozorasha.co.jp

*書店では扱っておりません。お問い合わせ、お申し込みは下記へ。(専売) 国内販売元



パンセ
学術図書販売(株)

〒650-0011 神戸市中央区下山手通6-1-4 オフィス下山手3B
TEL 078-945-7835 FAX 078-945-7886

0120-518-521

E-Mail: contact@tosho-pensee.com <http://www.tosho-pensee.com>